

講演

都市と水

山田雅雄

Masao Yamada

中部大学客員教授



グローバル化の進展に伴う産業の空洞による地方都市の衰退化あるいは水源地である農山村の限界集落への危惧などへの対応が求められている。その対応策として広域連携，なかでも文化，風土，生活，経済面で一定のまとまりのある流域圏における広域連携（自立）があげられる。ご講演では流域圏の自立について数例を挙げて紹介するとともに，あわせて発展途上国開発援助の新しい手法である「BOP ビジネス」の概要について，事例を交えてご紹介いただいた。

1. 流域圏の自立

流域圏の持続可能性を考えた時に必要なのは，大前提として「地域の自立」が必要だが，その自立の先にあるのが，「共有化できる理念」，「共有化できるビジョン」，そして「ガバナンス・ガバメント」である。

上下流域の交流事例として「有限会社ふうりのさと」の活動，自治体宣言としての「水の環，人の和，生物の輪」の紹介，矢作川での矢作川沿岸水質保全対策協議会の理念である「流域は一つ，運命共同体」とその活動を紹介した。

2. BOP ビジネス

事例紹介として，大東島（沖縄県）での点滴栽培法への水供給システム，東京で雨水利用へ取り組んでいる天水研究会の活動紹介，ヤマハ発動機が海外駐在員向けに開発した小型の緩速濾過装置の紹介をし，BOP ビジネスの意義，可能性，複合性について説明をいただいた。



プロフィール

1971年	東京大学工学部都市工学科卒業
同年	名古屋市下水道局に入庁
1998年	総務局企画課長，企画部長として名古屋市の『新世紀計画 2010』策定などに係わる。
2003年	名古屋市上下水道局長に着任
2007年	名古屋市副市長を就任
現在	名古屋市立大学特任教授，中部大学客員教授，「水のいのちとものづくり中部フォーラム」顧問など